

自力解決段階

「授業に取り入れる手立て」の実践例です。



(ア) 途中まででも自分の考えをもてるように、ヒントコーナーを設定する。

単元名 円の面積（6 学年）	
<p>組み合わせたら、形が見えてきたよ。</p> <p>あ！そうか。分かったぞ！</p>	ヒントコーナーに実物（パズルのようにしておく）を置いておき、実際に動かしながら図形の特徴を捉えることができるようにした。 <p>目指した児童の姿 児童自身が「問い」をもち、進んで問題解決に取り組む姿。</p>

(イ) 自分の考えをもてていない児童が複数いる場合は教師の近くに呼んで、途中まで一緒に考える。

実践例	
	<ul style="list-style-type: none"> 戸惑っている児童が数名いたら、「ヒントがほしい人は前においで」と呼び掛けた。 集まった児童へ、解決方法を説明していった（途中まで）。 途中で解決方法が見付かれば、随時、自分の席に戻っていいこととした。 <p>目指した児童の姿 分からないことも含めて、自分の考えを粘り強く表現しようとする姿。</p>

(ウ) 判定基準を伝える場を設定する。

単元名 広さを調べよう（4 学年）	複合図形の面積の求め方を考える
	T: 1 個終わったら、2 枚目、3 枚目取りに来ていいです。1 個できたら○！2 個できたら◎、3 個できたら花丸！！それを目標に頑張ってね。 <p>目指した児童の姿 答えが出たら終わりではなく、他の方法を考えようとする姿。</p>